

1962(昭和 37)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

名古屋市で生まれる。狭山市広瀬台在住。1987(昭和 62)年多摩美術大学絵画科卒業。小学生の頃、絵画コンクールに入賞したが、その後絵に対して特別な思い入れはなかった。絵の勉強を始めたのは美大を目指すための予備校に通うようになってから。多摩美術大学の絵画科に入学。「卒業後は壁画を描いたりデパートのオブジェを作ったりしていたが、転機になったのはトリックアートの仕事が依頼されたことである。いざ取り組んでみると、アートの中に観覧者が被写体となって入り、錯覚を楽しんでくれることがとても面白かったし、自分ならもっとうまく作れると思ったからです」と、服部氏は述べている。



2023(令和 5)年 3月 18日～5月 14日、狭山市立博物館で「わくわくトリック 3D アート展—魔法の絵画の世界—」を開催し、市内外を問わず多くの市民で賑わった。

2. 主な業績

2010(平成 22)年からトリック 3D アートのイベントを展開している。派手なトリックと斬新な表現で国内を代表するトリック 3D アート作家として知られるようになり、海外のメディアにも数多く取り上げられている。



絵画と人が一体化し立体的に見える
不思議なトリック 3D アートの世界

- 2005 年、J R 甲賀駅に忍者のトリックアート 7 点制作。
- 2011 年から国内数カ所で「古代エジプトトリックアート展」、国内 100 カ所超で「服部正志作・トリックアート展」「トリック 3D アート展」「魔法の絵画展」開催。
- 2012 年、大阪市で 250 坪の規模の企画展を開催。
- 2017 年、川崎市市民ミュージアム「服部正志トリック 3D アート展」が海外のメディアに取り上げられる。
- 2018 年、川越市元町に「ミュージアム・トリック 3D アート in COEDO」、ドイツのハンブルグ市とロストック市に「服部正志トリック 3D アート館」開館。
- 2024 年、ベルリン市に常設館をオープン予定。

3. 特筆

15 年の歳月と 150 点以上の作品制作を通して、最高に工夫を凝らしたトリックアートを作っていると自負する。ドイツに 2 館常設のミュージアムがあり、目標は大好きなパリ市でもミュージアムを出すことである。川越市の蔵造りエリアにある「ミュージアム・トリック 3D アート in COEDO」で作品を楽しむことができる。

〈インタビュー〉服部正志氏

〈参考資料〉「広報さやま・躍」2023 年 4 月号・狭山市立博物館展覧会資料